

編集後記：最近、持っている専門書を「書き込みをするため」という理由でスキャンしてPDFデータとしてタブレットに入れるという作業をよく行います。ペン型のデバイスを用いた書き込みはもちろんのこと、部分的なスクリーンショットで図や長い式などを拡大・縮小した上で任意の余白に持ってくることができ、大変便利だからです（特にページを跨いだ図や式の参照があるときには大活躍です）。書き込みにおいて、間違えても簡単に元の状態に戻すことができる、というのも大きな利点です。

ところが10年ほど前は、PDFデータで持っているものは「書き込みをするため」という理由で、印刷して紙媒体にしてから書き込んでいました。タブレットやペン型のデバイスといった機器の登場により、まったく同じ動機であるにもかかわらず、変換する方向が逆転してしまっています。なかなか面白いと思いました。

天気も、PDFデータでの講読が可能です。冊子で講読されている方も、「書き込みをするため」にPDFでの講読をご検討してみたいかがでしょうか。

(伊藤享洋)